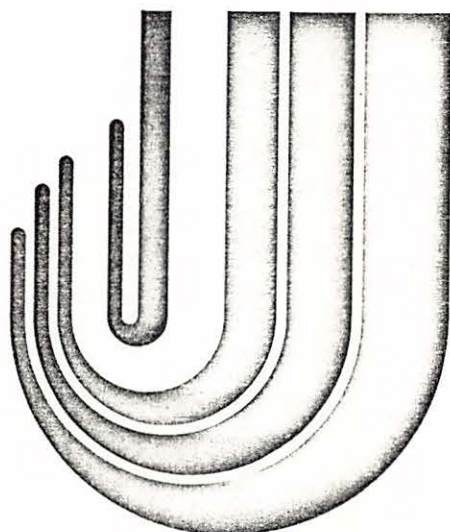


第28回技能五輪国際大会

開会式プログラム



OSAKA, JAPAN 1985

*Opening Ceremony, 28th IVTC
Eröffnungszereemonie, 28. IBWC
Cérémonie d'ouverture, el 28 CIFP
Ceremonia de apertura, 28^e CIFP*

(財)技能五輪日本組織委員会

開会式プログラム.....	1
Opening Ceremony	9
Eröffnungszereemonie	17
Cérémonie d'ouverture	25
Ceremonia de apertura	35

開会式プログラム

〈と き〉

1985年10月21日(月)

〈ところ〉

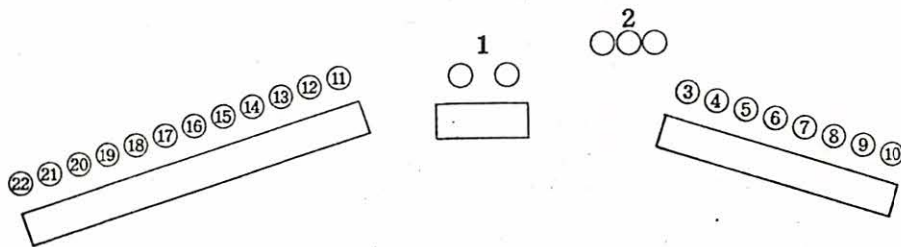
万国博ホール

第28回技能五輪国際大会開会式次第

司会者 川 上 裕 之

No 1	14 : 00	選 手 団 入 場
No 2	14 : 08	歓迎アトラクション
No 3	14 : 44	来賓及び大会役員紹介
No 4	14 : 47	皇太子殿下同妃殿下ご臨席
No 5	14 : 49	大会旗、選手代表入場
No 6	15 : 04	日本国旗、大会旗掲揚
No 7	15 : 07	開 会 の 辞 日本組織委員会事務総長 石 井 甲 二
No 8	15 : 08	歓 迎 の 言 葉 日本組織委員会会長 古 賀 繁 一
No 9	15 : 12	大会会長挨拶 国際組織委員会会長 Francisco ALBERT VIDAL
No 10	15 : 16	選 手 宣 誓 日本選手(電工競技出場) 藤 田 正 二
No 11	15 : 18	皇太子殿下のお言葉
No 12	15 : 23	来 賓 挨 拶 労 働 大 臣 山 口 敏 夫 大 阪 府 知 事 岸 昌
No 13	15 : 33	記念切手贈呈 郵 政 大 臣 左 藤 恵
No 14	15 : 38	閉 会 の 辞 日本組織委員会事務総長 石 井 甲 二
No 15	15 : 40	皇太子殿下同妃殿下ご退席
No 16	15 : 44	観光映画上映
No 17	16 : 04	選 手 退 場

来賓及び大会役員



- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 皇太子殿下同妃殿下 | |
| 2. 宮内庁関係者 | |
| 3. 労働大臣 | 山口 敏夫 |
| 4. 郵政大臣 | 左藤 恵 |
| 5. 大阪府知事 | 岸 昌 |
| 6. 大阪府議会議長 | 坪井 一字 |
| 7. 労働省職業能力開発局長 | 野見山 真之 |
| 8. 大阪市長 | 大島 靖 |
| 9. 枚方市長 | 北牧 一雄 |
| 10. 摂津市長 | 井上 信也 |
| 11. 日本組織委員会会長 | 古賀 繁一 |
| 12. 国際組織委員会会長 | Francisco ALBERT VIDAL |
| 13. 国際組織委員会第1副会長 | Sze-Chen WANG |
| 14. " 第2副会長 | René GONTHIER |
| 15. " 第3副会長 | 江 田 茂 |
| 16. " 事務総長 | Daniel SOMMER |
| 17. 日本組織委員会副会長 | 河 原 亮三郎 |
| 18. " | 山 下 俊彦 |
| 19. " | 前 田 義里 |
| 20. " | 阿 部 栄夫 |
| 21. " | 関 英夫 |
| 22. " 事務総長 | 石 井 甲二 |

古 賀 繁 一

日 本 組 織 委 員 会 会 長

第28回技能五輪国際大会が開催されるにあたり、日本組織委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

今大会のために国際組織委員会からフランシスコ・アルバート会長ほか幹部の方がた、世界の18か国及び地域から選手、役員をはじめ多数の方がたのご来日をいただき、深く感謝申し上げますとともに心から歓迎の意を表します。

本日ここに皇太子、同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、労働大臣はじめ、多数のご来賓のご出席をいただき、このように盛大な開会式を迎えることができますことは今大会の実施・運営にあたる私たちの最も喜びとするところであります。

ご承知のように現代は、技術の進歩と職業能力の開発によって、世界の豊かさと繁栄が支えられており、青年が職業訓練を経て、この面への真摯な貢献が高く評価されています。

技能五輪は青年のこの役割遂行の推進とこれに対する社会の正しい認識と評価を得るために国際的に努力してきており、その功績は誠に大きく、賞賛に価します。

日本組織委員会はこの大会の意とするところを充分理解し、これを成功裡に実施するために、日本の産業界、労働省、中央職業能力開発協会、地元の大阪府、その他関係方面と力を合わせ、国際組織委員会の指導のもとに万全の努力をしてきました。

選手の皆さんは、それぞれの戦域での優れた技能者であり、大ぜいの中から選ばれた人たちであります。その実力を充分発揮して、立派な成績をあげられるよう期待します。

皆さんは1週間余の間行動を共にされます。お互いに理解と友情を深め、国際友好親善に資せられることと存じます。

本大会は今回は大阪で開催されました。大阪は活気溢れる大産業都市であります。日本の昔の首都であり、貴重な歴史・芸術・文化を保っています。

折角の機会でありますので、皆さん今回は、産業方面のこのみならず、日本の芸術・文化についてもよくご覧になって、日本についてのご理解を深めていただくようお願いします。私達も心からのお手伝いをいたします。

今大会の成功と、本大会の今後の発展を祈り、外国からのお客さまのご滞日が快適で実り多いよう、祈ります。

フランシスコ アルバート ヴィダル

技能五輪国際組織委員会会長

皇太子同妃両殿下、労働大臣、郵政大臣、大阪府知事、中央職業能力開発協会会長、総会のメンバー及び国際組織委員会審査委員の皆様、競技に参加される若人諸君、その他御列席の皆様。

皇太子同妃両殿下の御臨席の下、ここに第28回技能五輪国際大会を開催する運びとなりました。国際青年年にあたる本年の開催に際し、工業・手工業からサービス業まで職種を問わず、日頃職業にいそしむ青年諸君及び現在職業訓練中の諸君に対し、深甚の敬意を表するものであります。

国際組織委員会は、青年の職業訓練に対する社会の信望と尊敬を高めていくことを目的として活動しております。本日より列席の世界18カ国・地域からご参加いただいた方々もその目的を同じくされていることと思います。当委員会では、こうした目的を達成するため、生産活動や経済、技術開発等に従事する青年諸君に対し各種活動を続けており、これがやがては平和的繁栄をもたらし、世界に交友の輪を広げることになると信じます。

1984年11月23日、私は第1回全中南米職業訓練大会開会式に出席しましたが、その時のブラジルの労働大臣の御挨拶の中に、「親から子に贈る一番大切な贈り物は理念である」という一節がありました。技能五輪国際大会を開催するという理念は、35年前の1950年に生まれたものです。この理念はオリンピック創始者の言葉にもあるように、「人の心から生まれる偉大な理念とは勤労を讃えることである」という人間的必要性に基づいたものです。技能五輪国際大会開催の基本理念は、競技に参加する勤労青年達が親交を結ぶことによって、この次代を担う青年に一生の思い出となる経験を与えるということなのです。大会の目的のひとつとして青年がもつ優れた仕事への意欲を掻立てることがありますが、これはつまり労働を通じて社会への貢献を経験させ、精神的充実感を得させようということなのです。

この理念が当国際組織委員会からこれまで技能五輪国際大会に参加した約6,000名の青年達への贈り物であり、ひとりでも多くの方々にこの理念が理解されることを願ってやみません。第28回大会参加者の皆様におかれてもこの理念を基本原則としてご理解いただき、今後とも労働及び職業訓練に正当な評価を下していただけるようお願い申し上げます。

本日、御臨席を賜った皇太子同妃両殿下には、特に称賛と尊敬の意を表します。勤労青年のために数々の施策を行っている日本政府、暖かく迎えて下さった大阪府、さらにまた今大会実施にあたり数々の御尽力を頂いた中央職業能力開発協会に厚くお礼申し上げます。国際組織委員会総会の皆様及び御列席の皆様に代わり、大阪大会に課せられた意義に心から満足と感謝の意を表します。

皇太子殿下お言葉

第28回技能五輪国際大会

昭和60年10月21日

第28回技能五輪国際大会が外国から多数の参加者を迎え、ここ大阪において開催されますことは大変喜ばしいことであります。

この大会が前回日本で開催されましたのは15年前千葉においてであります。そのときに比べ参加国も競技種目も増加しております。このことから、この大会の発展の跡がうかがわれるところであります。ここに大会関係者のご努力に対し敬意を表したいと思います。

現在の産業の世界においては、機械化が進行しておりますが、産業の基礎となる人間の技能の重要性は低くなるどころかますます高まっております。皆さんはこの価値ある技能に生きる者として、技を磨き経験を重ねこの大会の選手となられたことと思います。この大会が皆さん一人一人にとって意義深いものとなり、また、この大会によってお互いの間に友情の輪が広がるならば誠に幸いです。

技能五輪国際大会が将来にわたって技能に生きる若人の^{ともしび}灯となるよう期待し、大会に寄せる言葉といたします。

山 口 敏 夫

労 働 大 臣

本日ここに皇太子・同妃両殿下の行啓を仰ぎ、内外から多数の関係者の御参加を頂きまして、第28回技能五輪国際大会の開会式がかくも盛大に挙行されましたことを心からお祝い申し上げます。

私は、まずアルベルト国際組織委員会会長、王並びにゴンチェール両副会長をはじめ、この国際大会に海外からはるばる御参加を頂きました役員、選手の皆様方に対しまして、日本国政府を代表して心から歓迎申し上げます。

御承知のとおり、この国際大会は1950年にスペイン国において第1回大会が開催されて以来、参加国及び出場選手は増加の一途をたどり、若い技能労働者の国際的祭典と呼ばれるにふさわしい行事に発展してまいりました。これまでの大会が各国の技能水準の向上と国際親善とに貢献してきた成果は極めて大きく、私は本大会の発展に寄与された多くの方々に対し深く敬意を表するものであります。

我が国において本大会が開催されますのは、1970年の第19回大会に次いで2回目であり、特に本年は、国連が提唱した「国際青年年」に因みまして、明日の時代を担う働く青年の祭典として、参加者や競技が実施される職種数において、これまでの大会に例を見ない最大規模の大会がここに開催されますことは、誠に時宜に適ったものであり、御同慶の至りであります。

特にこの開会式が行われております会場は、1970年に世界の科学技術の祭典である万国博覧会が行われた記念すべき場所であります。当時私達が初めて目にした最先端技術は、マイクロエレクトロニクス導入をはじめとする技術革新の進展により、各地の工場や事務所において実用化されてまいりました。

加えて経済のサービス化やソフト化は様々な産業分野に広がり、労働者の職務内容や就業形態にも大きな変化が生じ、このためそのニーズに適った職業能力をかんづく広範な知識に裏付けられた高度の技能を必要とするようになってきたところであります。

このような状況の下で、この国際大会に各国の青年技能労働者の代表として参加された選手の皆様方が、その優秀な技能を遺憾なく発揮され、競技が行われますことは誠に意義深いものがあると確信するものであります。さらに、この大会が技能を通して参加各国の皆様方との相互理解と友情を一層深める機会となり、世界の平和と繁栄に寄与することになりますならば、本大会の開催国である我が国として、これに勝る喜びはありません。

私は、本大会が立派に運営され、大会開催の目的が十分達成されることを念願し、確信いたすものであります。

終わりに、第28回国際大会の開催のために尽力された国際職業訓練競技大会本部の方々、本大会の日本側運営機関として準備にあたってこられた財団法人技能五輪日本組織委員会並びに開催地大阪府をはじめ、国内関係者各位の御努力に対し、心から敬意を表して、私の御挨拶といたします。

岸 昌

大 阪 府 知 事

皆様、ようこそ大阪へお越し下さいました。870万大阪府民を代表して、心から歓迎申し上げます。

国際青年年に当たる本年、青年技能者の国際的祭典である技能五輪国際大会の開催地として大阪が選ばれ、本日ここに皇太子・同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、世界の各地から多数の選手をはじめ技能五輪関係者の方々をお迎えして、開会式がこのように盛大に挙行されましたことは、地元知事として、大変名誉なことであり、喜びに堪えない次第であります。

近年、日本におきましては、OA化、FA化など先端技術の進出が著しく、基礎技能のもつ役割が軽視される傾向にありますが、このような高度なシステムをより効率的に運用させるためには、熟練技能者のもつ技能が、是非とも必要であり、これまでとは異なった形で、技能労働者の果たす役割が逆に大きくなるものと言われています。

このようなときに、世界各地から技能に秀でた青年や職業訓練関係者の参加を得て本大会がこの大阪で開催されますことは、我が国の次代を担う青年の技能習得意欲の高揚をはじめ、職業訓練の振興、社会における技能尊重気運の醸成に大きく貢献するものと期待いたしております。

大阪は、京都、奈良よりも古い歴史をもち、同時に進取・創造の気風に富み、常に新しい文化に挑戦する地域であります。

今大阪は21世紀に向けて、世界に開かれた国際都市の建設をめざして、わが国初の24時間運航可能な関西国際空港の建設を促進しているほか、本大会をはじめ多様な各種国際イベントを継続して開催するなど国際交流の促進と都市の活性化に努めているところであります。

選手の皆様方におかれましては、明日から始まる競技において、平素の実力を十分発揮されるとともに、各国からの参加者と技能を通じて友情を深められ、国際青年年のテーマであります「参加、開発、平和」の精神に則り、意義ある大会を創造され、また、それぞれの国に帰られて大きな役割を果たされるよう期待いたします。

また、是非、この機会に大阪の街と生活と文化をつぶさに御覧いただくとともに、大阪の企業やそこに働く労働者との積極的な交流を図られ、大阪滞在が今後の皆様方の活躍に役立つことを願うものであります。

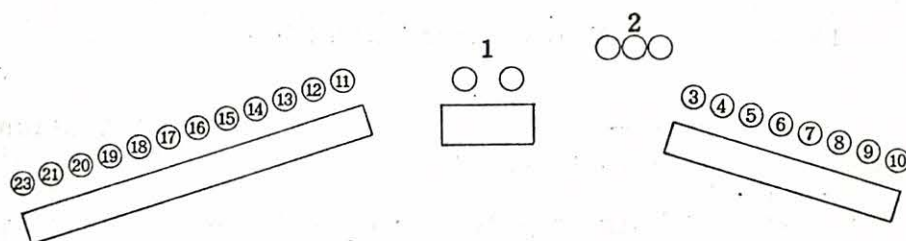
最後に、本大会のため、御尽力いただきました技能五輪国際組織委員会、技能五輪日本組織委員会の方々をはじめ関係者の御労苦に対しまして、深く敬意を表しますとともに、大会の成功と選手の皆様方の御健闘を祈念いたしまして、あいさついたします。

OPENING CEREMONY

Master of ceremonies
Hiroyuki Kawakami

- | | | |
|--------|-------|---|
| No. 1 | 14:00 | Entrance of competitors |
| No. 2 | 14:08 | Welcome show |
| No. 3 | 14:44 | Introduction of guests and officials |
| No. 4 | 14:47 | Entrance of Their Imperial Highnesses the Crown Prince and Princess |
| No. 5 | 14:49 | Entrance of IVTC flag and Representatives of competitors |
| No. 6 | 15:04 | Hoisting of Japanese national and IVTC flags |
| No. 7 | 15:07 | Official opening of the Ceremony
Koji Ishii, Secretary-General, Japan Organising Committee |
| No. 8 | 15:08 | Welcome address
Shigeichi Koga, President, Japan Organising Committee |
| No. 9 | 15:12 | Address
Francisco Albert Vidal, President of the International Organisation for the Promotion of Vocational Training |
| No. 10 | 15:16 | Competitors' oath
Shoji Fujita, Competitor from Japan for house wiring |
| No. 11 | 15:18 | Address by His Imperial Highness the Crown Prince |
| No. 12 | 15:23 | Congratulatory address
Toshio Yamaguchi, Minister of Labor
Sakae Kishi, Governor of Osaka Prefecture |
| No. 13 | 15:33 | Presentation of commemorative stamps Megumu Sato, Minister of Post and Telecommunications |
| No. 14 | 15:38 | Closing address
Koji Ishii, Secretary-General, Japan Organising Committee |
| No. 15 | 15:40 | Departure of Their Imperial Highnesses the Crown Prince and Princess |
| No. 16 | 15:44 | Screening of sightseeing film |
| No. 17 | 16:04 | Exit of competitors |

GUESTS AND OFFICIALS



1. Their Imperial Highnesses the Crown Prince and Princess
2. Personnel of the Imperial Household Agency
3. Toshio Yamaguchi, Minister of Labor
4. Megumu Sato, Minister of Posts and Telecommunications
5. Sakae Kishi, Governor of Osaka Prefecture
6. Kazutaka Tsuboi, Chairman, Osaka Prefectural Assembly
7. Masayuki Nomiyama, Director-General, Human Resources Development Bureau, Ministry of Labor
8. Yasushi Oshima, Mayor of Osaka
9. Kazuo Kitamaki, Mayor of Hirakata
10. Shinya Inoue, Mayor of Settsu
11. Shigeichi Koga, President, Japan Organising Committee
12. Francisco Albert Vidal, President, International Organisation for the Promotion of Vocational Training
13. Sze-Chen Wang, First Vice President, International Organisation for the Promotion of Vocational Training
14. René Gonthier, Second Vice President, International Organisation for the Promotion of Vocational Training
15. Shigeru Eda, Third Vice President, International Organisation for the Promotion of Vocational Training
16. Daniel Sommer, Secretary-General, International Organisation for the Promotion of Vocational Training
17. Ryozauro Kawahara, Vice President, Japan Organising Committee
18. Toshihiko Yamashita, Vice President, Japan Organising Committee
19. Yoshisato Maeda, Vice President, Japan Organising Committee
20. Hideo Abe, Vice President, Japan Organising Committee
21. Hideo Seki, Vice President, Japan Organising Committee
22. Koji Ishii, Secretary-General, Japan Organising Committee

WELCOME ADDRESS

SHIGEICHI KOGA

PRESIDENT, JAPAN ORGANISING COMMITTEE

On this occasion of commencement of the 28th International Vocational Training Competition, I would like to speak to you briefly on behalf of the Japan Organising Committee.

I would like to offer my warmest welcome to President Albert and the senior executives of the International Organising Committee and to the competitors and officials from the participating 19 countries and regions of the world.

Today we are honoured with the presence of Their Imperial Highnesses the Crown Prince and Princess of Japan, the Minister of Labor and many other distinguished guests for this ceremony. We who have organised and who conduct this competition are greatly pleased at this splendid opening ceremony.

As you know, in this modern age, affluence and prosperity in the world are maintained by technical improvements and developments in vocational skill. In this regard, the great contributions of vocationally trained youth are highly valued.

The Skill Olympics have helped internationally in enabling youth to fulfill its role and helping society to recognise and appreciate this role. The remarkable accomplishments of the Skill Olympics are thus eminently worthy of our admiration.

Realising the purpose of this competition, the Japan Organising Committee has struggled to ensure its success. We have worked with Japanese Industrial circles, the Ministry of Labor, the Japan Vocational Ability Development Association, our host Prefecture of Osaka, and many other helpful individuals concerned. We also benefited from the cooperation of the International Organisation for the International Vocational Training Competition.

All the competitors here excel at their respective trades, and they represent many co-workers. I hope all will give full play to their abilities and achieve excellent results.

All of you are spending about a week together in this effort; we hope that you will strengthen the mutual understanding and thus arising fellowship and contribute to international friendship in the spirit here embodied.

This competition is hosted by Osaka, large city of active industry, which adjoins the beautiful and peaceful former Japanese capitals of Kyoto and Nara, conserving the valuable history, arts and culture of ancient times.

Please make the best use of this opportunity, focusing not only on Japan's industries but also upon our arts and culture, for a deeper understanding of Japan. We are willing to assist you in this.

We wish earnestly for the success of this competition and for the continued growth of the Skill Olympics hereafter; and may our gracious guests enjoy a comfortable and fruitful stay in Japan.

ADDRESS

FRANCISCO ALBERT VIDAL

PRESIDENT, THE INTERNATIONAL ORGANISATION FOR THE PROMOTION OF VOCATIONAL TRAINING

Your Imperial Highnesses, the Crown Prince and Princess of Japan
Your Excellency the Minister of Labor
Your Excellency the Minister of Post and Telecommunications
Your Excellency the Governor of Osaka
Distinguished Director of the Japan Vocational Ability Development Association
Members of the General Assembly and the Juries of the International Organisation
Distinguished participants in the Competition
Ladies and gentlemen

We are gathered here together, honoured in the presence of Their Imperial Highnesses the Crown Prince and Princess of Japan, to open in all solemnity the 28th International Skill Olympics; we open it in this International Year of Youth by remembering and paying tribute to all the young people of the world who work in industry, crafts or services, or who are undergoing vocational training.

The International Organisation over which I preside wishes to express with special solemnity, through my words, its interest in, and purpose of raising within society the respect and consideration given to activities devoted to the vocational training of youth. This interest and this purpose are clearly evident in all the Organisations and Institutions represented in our Organisation, in the eighteen countries of the four continents represented here, in the efforts devoted to young people who, through their work, cooperate in the productive activities and participate in the economic and technological developments that can bring about the peaceful well-being and noble companionship that the world needs and deserves.

On November 23, 1984, I was present at the closing ceremony of the 1st Inter-American Competition for Vocational Training. I want to quote here in Japan a sentence the Brazilian Minister of Labor spoke on that occasion: "Ideas are the most important gifts of one generation to the next". Our concept in organising these International Skill Olympics goes back thirty-five years ago, to 1950; this concept is based on the human need to glorify work as a vast idea that comes from the heart, in the words of the founder of the modern Olympic Games. The aim here is to establish contact among all the young skilled workers who participate in the Competition, so that this experience, in which you, the young skilled people, play the main roles, becomes an important event in your lives. Its aim is also to stimulate youth to perform a job well done and in this way obtain the spiritual satisfaction of having rendered a noble service to society.

This is the gift our International Organisation has bestowed upon the almost six thousand young people that have participated in the International Youth Skill Olympics since its beginning; we hope they have made the best use of it. We are sure that you, the participants in the 28th Competition, will also appreciate it, and come to accept it as a basic principle, and we hope that you will continue help impart to your work and to vocational training the respect and consideration they deserve in society.

I especially wish to express our admiration and respect to Their Imperial Highnesses, the Crown Prince and Princess of Japan, who so honour us with their presence; I wish to thank the Japanese Government for its numerous contributions to young skilled workers; I would like also to express our gratitude for the

cordial hospitality of the authorities of Osaka, as well as our appreciation of the efforts of the Japan Vocational Ability Development Association in organising this Competition. In the name of the Member Assembly of the International Organisation for the Promotion of Vocational Training and of all present, I wish to express our satisfaction and heartfelt gratitude for the importance given to this event in Osaka.

ADDRESS BY HIS IMPERIAL HIGHNESS THE CROWN PRINCE

It gives me great pleasure that the 28th International Vocational Training Competition is being held here in Osaka with the participation of so many from overseas.

It was 15 years ago that Japan previously hosted the competition in Chiba. Compared with that occasion, the number of participating countries and events has increased. We can thus realise how much this competition has grown. I would like to express my deep appreciation to all those involved in this endeavour.

Although in today's industrial world mechanisation continues to advance, the importance of man's technical skill, which is the very foundation of industry, far from lessening is being more and more stressed. I know that all of you, possessing these valuable skills, take part in this competition with years of experience and highly trained in your profession.

I hope that this competition will be for each one of you an enriching experience. And how wonderful it would be if the bond of friendship among yourselves could be forged during these days!

I would like to conclude by expressing the hope that the International Vocational Training Competition in the years ahead will be an inspiration to all youth who possess technical skills.

CONGRATULATORY ADDRESS

TOSHIO YAMAGUCHI

MINISTER OF LABOR

Today, in the honoured presence of Their Imperial Highnesses Crown Prince Akihito and Princess Michiko, and with the attendance of a large number of participants and associates from Japan and abroad, we are witnessing the auspicious opening ceremony of the International Vocational Training Competition. Let me extend my congratulations.

On behalf of the Japanese government, I would like to warmly welcome all the officials and competitors, both those from Japan and those who have come from abroad to participate in this competition, including President Albert and Vice-Presidents Won and Gonthier of the International Committee for the International Vocational Training Competition.

As you may know, the number of participating countries and competitors in the Skill Olympics has been steadily increasing since the first International Competition was held in Spain in 1950. Appropriately called an international festival for young skilled workers, the Skill Olympics has contributed greatly to enhancing the standard of skills in the world, as well as to international friendship. Let me here pay tribute to the many individuals who have helped so much in developing the Skill Olympics.

This is the second competition hosted by Japan, the first occasion being the 19th competition, held in 1970. The present event however is the greatest competition yet held, in numbers of competitors and trades contending. It is very opportune as well that this festival for working youth, upon whose shoulders the future rests, is taking place during International Youth Year; I would like to offer my hearty congratulations.

I would like to mention by the way that the hall in which we are holding this opening ceremony today is in memorial park, where the World Exposition, the festival of science and technology of the world, was held in 1970.

The most advanced technology we observed at that time has since been put to practical use in factories and offices throughout Japan, thanks to further technological innovations such as microelectronics.

As well, various industrial circles have placed emphasis on service and software. The result of all this has been that job specifications and employment systems have changed greatly. Thus workers must now possess the appropriate vocational capabilities, that is, advanced skills backed by extensive knowledge.

It is certainly meaningful therefore that these competitors contend in the full exertion of their excellent skills. I hope that this competition will additionally provide those participating with the opportunity to achieve deeper mutual understanding and friendship through the exercise of their skills and thereby contribute to prosperity and peace in the world, which would be the greatest result Japan could hope for as host country of this event. I am sure that this competition will meet with every success and that all its aims will be achieved.

In closing, I would like to thank the members of the general secretariat of the International Vocational Training Competition, who made every effort to ensure the success of this 28th competition, the members of the Japan Organising Committee for IVTC, which have done the preparation work as the administrative structure of this competition in Japan, the host Prefecture of Osaka, and the other organisations and firms throughout Japan who have so kindly rendered assistance.

CONGRATULATORY ADDRESS

SAKAE KISHI

GOVERNOR OF OSAKA PREFECTURE

We deeply appreciate your visit to Osaka; on behalf of the City's 8.7 million residents, I am very happy to welcome all of you.

It is Osaka's honour to host the International Vocational Training Competition, a gathering of young, skilled workers, particularly in that this is International Youth Year. The attendance of Their Imperial Highnesses the Crown Prince and the Princess and the great number of competitors and associates from around the world make it a great privilege and a real pleasure for me, as Governor of Osaka, to host this auspicious opening ceremony.

The advanced technological developments seen in Japan recently, such as Office Automation, have been quite remarkable, though with somewhat of a tendency to underemphasise basic skill. The fact is, however, that in order to operate these advanced systems to their maximum efficiency, the skill of well-trained workers is indispensable. Therefore it may safely be said that the role of the skilled worker will increase in importance, although it will change in nature.

This historical competition, involving as it does the excellent skills of the participating young workers and the earnest efforts of individuals concerned with vocational training, will greatly encourage the acquisition of greater skills among Japanese youth, in whose charge rests the destiny of Japan. We are also confident that this vocational competition will bring our society to place a true and fitting value on these irreplaceable skills.

Though having a longer history than Kyoto or Nara, Osaka is yet progressive and creative in nature, seeking always to absorb new culture.

In approaching the 21 century, Osaka aims to be an international city, open to the world. Every effort is being made to complete construction of the Kansai International Airport, the first 24-hour airport in the nation. We are also promoting international friendship and the revitalisation of Osaka by hosting a series of international events, among them this competition.

Of the competitors in these events, I'd like only to ask that you show the best of your skills in competition, starting tomorrow, and through these skills strengthen the friendship you share with your fellow participants from all over the world.

It is my earnest hope that, in keeping with the theme of International Youth Year: "Participation, Development and Peace", you will enjoy all the benefits of competition, and use what you have learned here for the good of world development when you return to your homes.

I strongly recommend that all of you take this opportunity to thoroughly acquaint yourselves with firms and employees in Osaka and exchange views, experience the City itself and take part in its life and culture.

In closing, I'd like to pay high tribute to the efforts of the members of the International Committee for the International Vocational Training Competition, of the Japan Organising Committee for IVTC and the many others involved; I'd like to offer my best wishes for the success of the competition and the very best of luck to the competitors.

Eröffnungszereemonie

〈Datum〉

21, Oktober 1985

〈Ort〉

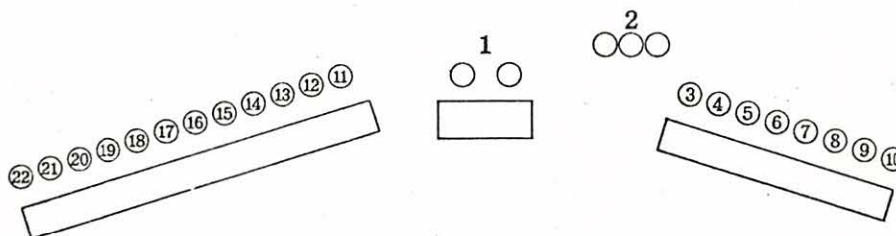
Weltausstellungshalle

ERÖFFNUNGSFEIER

Zeremonienmeister
Hiroyuki Kawakami

- | | | |
|--------|-------|--|
| Nr. 1 | 14:00 | Einzug der Wettbewerbsteilnehmer |
| Nr. 2 | 14:08 | Willkommensfeier |
| Nr. 3 | 14:44 | Vorstellung der Gäste und Offiziellen |
| Nr. 4 | 14:47 | Einzug Ihrer Kaiserlichen Hoheiten, des Japanischen Prinzenpaares |
| Nr. 5 | 14:49 | Einzug der IVTC-Fahne und der Vertreter der Wettbewerbsteilnehmer |
| Nr. 6 | 15:04 | Hissen der japanischen Nationalflagge und der Fahne des IVTC |
| Nr. 7 | 15:07 | Offizielle Eröffnung der Zeremonie
Koji Ishii, Generalsekretär des Japanischen Organisationskomitees |
| Nr. 8 | 15:08 | Willkommensansprache
Shigeich Koga, Präsident des Japanischen Organisationskomitees |
| Nr. 9 | 15:12 | Ansprache des Präsidenten der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung, Francisco Albert Vidal |
| Nr. 10 | 15:16 | Vereidigung der Wettbewerbsteilnehmer
Shoji Fujita, Wettbewerbsteilnehmer aus Japan für häusliche Elektroinstallationen |
| Nr. 11 | 15:18 | Ansprache Ihrer Kaiserlichen Hoheit, des Prinzen von Japan |
| Nr. 12 | 15:23 | Glückwunschansprache
Toshio Yamaguchi, Arbeitsminister
Sakae Kishi, Gouverneur der Präfektur Osaka |
| Nr. 13 | 15:33 | Präsentation von Gedenkbriefmarken durch den Minister für Postwesen und Telekommunikation, Megumu Sato |
| Nr. 14 | 15:38 | Schlußansprache
Koji Ishii, Generalsekretär des Japanischen Organisationskomitees |
| Nr. 15 | 15:40 | Aufbruch Ihrer Kaiserlichen Hoheiten, des Japanischen Prinzenpaares |
| Nr. 16 | 15:44 | Vorführung eines Films über touristische Sehenswürdigkeiten |
| Nr. 17 | 16:04 | Auszug der Wettbewerbsteilnehmer |

GÄSTE UND OFFIZIELLE



1. Ihre Kaiserlichen Hoheiten, das Japanische Prinzenpaar
2. Mitglieder der Kaiserlichen Haushaltsverwaltung
3. Toshio Yamaguchi, Arbeitsminister
4. Megumu Sato, Minister für Postwesen und Telekommunikation
5. Sakae Kishi, Gouverneur der Präfektur Osaka
6. Kazutaka Tsuboi, Vorsitzender der Präfekturversammlung Osaka
7. Masayuki Nomiya, Generaldirektor, Amt für Entwicklung menschlicher Arbeitsquellen im Arbeitsministerium
8. Yasushi Oshima, Bürgermeister von Osaka
9. Kazuo Kitamaki, Bürgermeister von Hirakata
10. Shinya Inoue, Bürgermeister von Settsu
11. Shigeichi Koga, Präsident des Japanischen Organisationskomitees
12. Francisco Albert Vidal, Präsident der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung
13. Sze-Chen Wang, Erster Vizepräsident der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung
14. René Gonthier, Zweiter Vizepräsident der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung
15. Shigeru Eda, Dritter Vizepräsident der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung
16. Daniel Sommer, Generalsekretär der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung
17. Ryoaburo Kawahara, Vizepräsident des Japanischen Organisationskomitees
18. Toshihiko Yamashita, Vizepräsident des Japanischen Organisationskomitees
19. Yoshisato Maeda, Vizepräsident des Japanischen Organisationskomitees
20. Hideo Abe, Vizepräsident des Japanischen Organisationskomitees
21. Hideo Seki, Vizepräsident des Japanischen Organisationskomitees
22. Koji Ishii, Generalsekretär des Japanischen Organisationskomitees

WILLKOMMENSANSPRACHE

SHIGEICHI KOGA

PRÄSIDENT DES JAPANISCHEN ORGANISATIONSKOMITEES

Anlässlich der Eröffnung des 28. Internationalen Berufswettbewerbs, ist es mir eine Ehre im Namen des japanischen Organisationskomitees zu Ihnen zu sprechen.

Zunächst möchte ich dem Präsidenten des Internationalen Organisationskomitees, Francisco Albert Vidal, den Vorstandsmitgliedern, den Wettbewerbsteilnehmern aus 18 Ländern der Welt, den Offiziellen und allen anderen Beteiligten meinen Dank dazu aussprechen, daß Sie zu diesem Wettbewerb hierher nach Japan gekommen sind und Sie auf das Herzlichste willkommen heißen.

Es ist für uns als die für die Durchführung und den Verlauf dieses Wettbewerbs Verantwortlichen eine große Ehre, zu dieser großen Eröffnungszeremonie Ihre Kaiserlichen Hoheiten, das Prinzenpaar, den Arbeitsminister, sowie viele andere namhafte Persönlichkeiten begrüßen zu können.

Reichtum und Wohlergehen der Menschheit werden heutzutage stark durch die Entwicklung des technischen Fortschritts und der Berufsbildung bestimmt. Daraus läßt sich die überragende Bedeutung ableiten, die einer qualifizierten Berufsausbildung der Jugendlichen zukommt.

Im Wissen um die Wichtigkeit der Berufsausbildung war und ist es Ziel dieses Wettbewerbs, Jugendliche zum Erlernen neuer Fähigkeiten anzuspornen und das Ansehen der jeweiligen Berufe in der Gesellschaft zu erhöhen. Ich glaube, daß der Wettbewerb erstaunliche Fortschritte zur Verwirklichung seines Ziel bewirkt hat.

Im Einklang mit dem Ziel des Wettbewerbs hat das japanische Organisationskomitee keine Mühe gescheut, um das Gelingen der Veranstaltung zu gewährleisten. Unter der Leitung des Internationalen Organisationskomitees wurde das Festival zusammen mit japanischen Industriekreisen, dem Arbeitsministerium, dem japanischen Verband für die Entwicklung der Berufsbildung, der Gastpräfektur Osaka und vielen weiteren Personen organisiert.

Die Wettbewerbsteilnehmer wurden in ihren jeweiligen Ländern und Berufssparten als die fähigsten Jugendlichen für den Wettbewerb ausgewählt und ich bin überzeugt, daß Sie alle hier ihr Bestes geben und gute Resultate erzielen werden.

Sie werden etwa eine Woche hier in Gemeinschaft verbringen, und wir hoffen, daß Sie dabei das kulturelle Verständnis und die Kameradschaft untereinander vertiefen, und so zur internationalen Freundschaft beitragen können.

Dieser Wettbewerb findet in Osaka statt. Während Osaka eine große, moderne Industriestadt mit schnellem Lebensstil ist, sind mit Kyoto und Nara zwei ehemalige japanische Hauptstädte in der Nähe, die das wertvolle historische, künstlerische und kulturelle Erbe vergangener Zeiten bewahren.

Bitte richten Sie Ihre Aufmerksamkeit nicht nur auf die japanische Industrie, sondern nutzen sie die Gelegenheit, damit Sie auch zu einem besseren Verständnis von Japan und seiner Kunst und Kultur gelangen. Gern werden wir Ihnen dabei behilflich sein.

Wir wünschen diesem Wettbewerb gutes Gelingen und unseren Gästen aus dem Ausland einen angenehmen Aufenthalt hier in Japan.

ANSPRACHE

FRANCISCO ALBERT VIDAL

PRÄSIDENT DER INTERNATIONALEN ORGANISATION ZUR FÖRDERUNG DER BERUFSBILDUNG

Kaiserliche Hoheiten, Prinz und Prinzessin von Japan
 Herr Arbeitsminister
 Herr Minister für Postwesen und Telekommunikation
 Herr Gouverneur der Präfektur Osaka
 Herr Direktor des Japanischen Verbandes für die Entwicklung der Berufsbildung
 Mitglieder der Generalversammlung und der Jury der Internationalen Organisation
 Liebe Jugendliche und Wettbewerbsteilnehmer
 Meine Damen und Herren

Wir sind zu diesem Festakt in Anwesenheit Ihrer Kaiserlichen Hoheiten, des japanischen Prinzenpaares, zusammengekommen, um in aller Feierlichkeit den 28. Internationalen Berufswettbewerb einzuleiten. Im Internationalen Jahr der Jugend eröffnen wir den Wettbewerb mit einer besonderen Huldigung für die Jugend der ganzen Welt, die Beschäftigten in Industrie, Gewerbe und Dienstleistungen und die in der Ausbildung stehenden Jugendlichen.

Unter den heutigen außergewöhnlichen Umständen, die uns die Gessellschaft in diesem historischen Moment bietet, möchte die Internationale Organisation, deren Präsidentschaft ich innehave, durch mich feierlich ihren Wunsch zum Ausdruck bringen, daß die mit der Berufsbildung der Jugendlichen verbundenen Aktivitäten an Beachtung und Prestige gewinnen. Dieser Wunsch ist präsent in allen zu unserer Internationalen Organisation gehörenden Institutionen und Organisationen, die aus achtzehn Ländern und vier Kontinenten zusammengetroffen sind; er kommt zum Ausdruck in der Aufgabe, die wir für eine Jugend ausführen, die durch ihre Arbeit zur Produktivität beiträgt und die sich an einer wirtschaftlichen und technologischen Entwicklung beteiligt, mit der ein friedlicher Wohlstand und das gute gesellschaftliche Zusammenleben erreicht wird, das die Welt braucht und verdient.

Am 23. November 1984 nahm ich in Rio de Janeiro an der Schlußfeier des 1. Panamerikanischen Berufswettbewerbs teil. Ich möchte hier in Japan einen Satz wiedergeben, den der brasilianische Arbeitsminister während des Festakts sprach: "Die Ideen sind die bedeutendste Gabe, die eine Generation von der anderen empfängt". Unsere Idee, diese Internationalen Berufswettbewerbe abzuhalten, entstand im Jahre 1950 und sie stützt sich auf das Bedürfnis des Menschen, "die Arbeit zu ehren", als eine "grosse Idee, die aus dem Herzen kommt" (wie der Gründer der Olympischen Spiele gesagt hat). Basis ist die Kontaktaufnahme unter den jugendlichen Arbeitern, unter Euch, die Ihr an dem Wettbewerb teilnehmt, und diese Erfahrung soll für immer ein wichtiges Ereignis in Eurem Leben darstellen. Ferner soll diese Idee der Jugend Freude und den Anreiz dazu bieten, eine "gute Arbeit" zu leisten, die mit der geistigen Befriedigung, der Gesellschaft einen Dienst zu erweisen, verbunden ist.

Diese Idee ist die Gabe, die unsere Internationalen Organisation den bisher beinahe sechstausend jugendlichen Teilnehmern der Berufswettbewerbe anzubieten hatte, und wir hoffen, alle haben die Gabe angenommen. Wir hegen keinen Zweifel, daß Ihr, die Teilnehmer dieses 28. Wettbewerbs, sie auch akzeptiert, sie soll Euer Grundprinzip werden, um künftig der Arbeit und der Berufsbildung das Prestige und die Würde zu verleihen, die ihnen zustehen.

Zum Abschluß möchte ich Ihren Kaiserlichen Hoheiten, dem japanischen Prinzenpaar, das heute unter uns ist, unseren Respekt zollen; unseren Dank an die japanische Regierung für ihre zahlreichen Beiträge zur arbeitenden Jugend; unsere

Anerkennung an die Verwaltung von Osaka, die uns eine so herzliche Aufnahme bereitet hat; unsere Dankbarkeit und unser Lob für den Japanischen Verband zur Entwicklung der Berufsbildung, der sich um die Organisation des Wettbewerbs so verdient gemacht hat. Im Namen der Mitgliederversammlung der Internationalen Organisation zur Förderung der Berufsbildung und im Namen aller Anwesenden bedanke ich mich herzlich für die Bedeutung, die man der Abhaltung des Berufswettbewerbs in Osaka gibt.

ANSPRACHE IHRER KAISERLICHEN HOHEIT, DES PRINZEN VON JAPAN

Es ist eine große Freude für mich, daß der 28. Internationale Berufswettbewerb hier in Osaka stattfindet und zahlreiche Teilnehmer aus verschiedenen Ländern begrüßt werden können.

In Japan wurde dieser Berufswettbewerb schon einmal vor 15 Jahren in der Stadt Chiba veranstaltet, aber diesmal hat sich sowohl die Zahl der Länder als auch die der Disziplinen vermehrt. Daran zeigt sich die Entwicklung des Berufswettbewerbs. Bei dieser Gelegenheit möchte ich den Bemühungen aller an der Organisation Beteiligten meine größte Anerkennung aussprechen.

In unserem heutigen Industriezeitalter nimmt die Automatisierung immer rascher zu. Trotzdem gewinnt das handwerkliche Können von Menschen immer größere Bedeutung.

Die Teilnehmer haben sich wertvolle technische Fertigkeiten angeeignet und sind aufgrund von Übung und Erfahrung als Vertreter für den Berufswettbewerb ausgewählt worden.

Ich wünsche von Herzen, daß der Wettbewerb für jeden von Ihnen sinnvoll verlaufe und Anlaß gebe, neue Freunde zu gewinnen.

Zum Schluß möchte ich meine Erwartung ausdrücken, daß der Internationale Berufswettbewerb auch künftig hin ein Stern der Hoffnung für die Jugend der Technik bleiben möge.

GLÜCKWUNSCHANSPRACHE

TOSHIO YAMAGUCHI

ARBEITSMINISTER

In Anwesenheit Ihrer Kaiserlichen Hoheiten, des japanischen Prinzenpaares, findet heute die feierliche Eröffnungszeremonie des Internationalen Berufswettbewerbs statt mit einer Vielzahl von Teilnehmern und Begleitpersonen aus dem In- und Ausland. Ich möchte Ihnen für diese Veranstaltung viel Erfolg wünschen.

Im Namen der japanischen Regierung möchte ich zunächst Herrn Präsident Vidal und die Vize-Präsidenten, Herrn Wang und Herrn Gonthier vom Internationalen Komitee, sowie die Offiziellen und Wettbewerbsteilnehmer, die zu diesem internationalen Wettbewerb aus dem Ausland hierherkamen, herzlich begrüßen.

Die Zahl der teilnehmenden Länder und Wettbewerbsteilnehmer nimmt seit der Austragung des ersten Internationalen Wettbewerbs in Spanien 1950 ständig zu. Dieser Wettbewerb hat sich zu einem Ereignis entwickelt, das zu Recht Internationales Festival für junge fähige Arbeiter genannt werden kann. Es hat viel zur Verbesserung verschiedener Arbeitstechniken in der Welt und zur Förderung der internationalen Freundschaft beigetragen. Ich möchte den zahllosen Menschen meine Anerkennung aussprechen, die dabei mitgewirkt haben, diesem Wettbewerb seine heutige Bedeutung zu geben.

Nach dem 19. Wettbewerb im Jahre 1970 ist Japan nun zum zweiten Mal die gastgebende Nation. Diese Veranstaltung ist bezüglich der Zahl ihrer Wettbewerbsteilnehmer und der vertretenen Berufssparten die größte, die jemals abgehalten wurde. Im einem Jahr, das von den Vereinten Nationen zum "Internationalen Jahr der Jugend" ausgerufen wurde, kommt diesem Wettbewerb als Festival der arbeitenden Jugend, die ja die Geschicke der Welt in Zukunft lenken wird, ganz besondere Bedeutung zu. Ich möchte Ihnen daher meine besten Wünsche zum Gelingen dieses Wettbewerbs aussprechen.

Ganz besonders möchte ich erwähnen, daß sich die Halle, in der heute die Eröffnungszeremonie stattfindet, in einer Anlage mit dem Namen Gedächtnispark befindet, wo 1970 die Weltausstellung -das Festival für Wissenschaft und Technik der Welt- ausgetragen wurde. Die Spitzentechnologie, die uns damals zum ersten Mal vorgestelet wurde, als Beispiel sei die Mikroelektronik genannt, hat inzwischen überall in Fabriken und Büros der Welt Einzug gehalten.

Damit ergaben sich neue Serviceangebote, die zusammen mit der Einführung von Computern die Struktur von Industrie und Wirtschaft revolutionierten und große Veränderungen im Aufgabenbereich der Arbeiter und im Berufssystem zur Folge hatten. Um diesen veränderten Bedürfnissen zu entsprechen, müssen Arbeiter nun über eine angemessene Berufsqualifikation verfügen, d.h. ein hohes Maß an Fertigkeiten unterstützt durch umfassendes Wissen.

Vor diesem Hintergrund nehmen die Jugendlichen als Vertreter junger, fähiger Arbeiter ihrer Länder an diesem Wettbewerb teil. Ich möchte die Wettbewerbsteilnehmer bitten, ihr Können und ihre Fertigkeiten während des Wettkampfs voll einzusetzen. Darüber hinaus hoffe ich aber auch, daß dieser Wettkampf allen Teilnehmenden die Gelegenheit gibt, mittele ihres Könnens das kulturelle Verständnis untereinander zu vertiefen und neue Freunde zu finden. Wir in Japan als gastgebende Nation dieses Wettbewerbs würden uns freuen, wenn Sie so ihren Beitrag zur Völkerverständigung in der Welt leisten könnten. Zum erfolgreichen Ablauf dieses Wettbewerbs und dem Gelingen der Veranstaltung möchte ich Ihnen meine besten Wünsche übermitteln.

Zum Schluß möchte ich den Mitgliedern des Generalsekretariats des Internationalen Berufswettbewerbs, die so stark für den Erfolg der Veranstaltung des 28. Internationalen Wettbewerbs gearbeitet haben, meinen Dank aussprechen. Unser Dank gilt weiter den Teilnehmern aller Länder, dem japanischen Organisationskomitee des IBW als dessen Verwaltungsorgan in Japan für seine Bemühungen bei den Vorbereitungsarbeiten, sowie der Gastgeberpräfektur Osaka und allen beteiligten Organisationen und Firmen in Japan.

GLÜCKWUNSCHANSPRACHE

SAKAE KISHI

GOUVERNEUR DER PRÄFEKTUR OSAKA

Wir freuen uns sehr, daß Sie von weither zu einem Besuch in Osaka zusammengekommen sind. Im Namen unserer 8,7 Millionen Einwohner möchte ich Sie herzlich in Osaka willkommen heißen.

Gerade im Internationalen Jahr der Jugend ist es für uns eine große Freude den Internationalen Berufswettbewerb, das Festival junger Arbeiter ausrichten zu dürfen. In meiner Eigenschaft als Gouverneur von Osaka ist es mir eine besondere Ehre in Anwesenheit Ihrer Kaiserlichen Hoheiten, des Prinzenpaares, zusammen mit den vielen Teilnehmern an diesem Wettbewerb und ihren Begleitpersonen aus der ganzen Welt Gastgeber dieser feierlichen Eröffnungszeremonie sein zu dürfen. Der technologische Fortschritt, wie zum Beispiel bei der Büro- und Fabrikautomatisierung ist in der letzten Jahren immer rascher geworden. Das Lehren und Erlernen grundlegender Fertigkeiten hingegen wurde oft vernachlässigt. Um die Möglichkeiten hochentwickelter Systeme jedoch wirkungsvoller ausnützen zu können, sind die Fertigkeiten gut ausgebildeter Jugendlicher unerlässlich. Die Rolle fähiger Arbeiter wird in Zukunft eher noch wichtiger, sie wird jedoch anders aussehen als in der Vergangenheit.

Gerade zu dieser Zeit des technologischen Umbruchs wird der Wettbewerb hier in Japan ausgetragen. An ihm nehmen fähige junge Arbeiter und darüber hinaus Personen, die sich mit Theorie und Praxis von Bildungssystemen befassen, teil. Ich hoffe, daß dieser Wettbewerb die japanische Jugend auf deren Schultern die Zukunft Japans liegt, dazu anspornt, das eigene Können weiter zu verbessern und auch eine höhere Wertschätzung ihrer Fertigkeiten innerhalb der japanischen Gesellschaft zu erreichen.

Osaka hat eine ältere Geschichte als Kyoto und Nara. Gleichzeitig ist es von Natur aus fortschrittlich und kreativ. Darüber hinaus ist es immer bemüht, Einflüssen neuer Kulturen offen gegenüberzustehen.

An der Schwelle zum 21. Jahrhundert ist Osaka danach bestrebt, eine weltoffene, internationale Stadt zu sein. Der im Bau befindliche Kansai Internationale Flughafen wird der erste 24 Stunden durchgehend geöffnete Flughafen Japans sein. Weiterhinsind wir danach bestrebt, den internationalen Austausch zu fördern und die Stadt Osaka lebendiger zu machen, indem wir eine Reihe internationaler Veranstaltungen wie z.B. diesen Wettbewerb hier abhalten.

Ich möchte die Wettbewerbsteilnehmer dazu auffordern, beim morgen beginnenden Wettkampf ihr ganzes Können zu demonstrieren und hoffe daß sie mittels ihrer Fertigkeiten neue Freundschaften mit den anderen Teilnehmern aus der ganzen Welt schließen können. Gemäß dem Motto "Teilnahme, Entwicklung und Frieden", dem Thema des Internationalen Jahrs der Jugend, wäre das Ziel dieses Wettbewerbs erreicht, wenn seine Teilnehmer nach Rückkehr in ihre Heimatländer ihre neu erworbenen Fähigkeiten zum Nutzen ihrer Gesellschaft sinnvoll einsetzen könnten.

Ich empfehle Ihnen, sich in Osaka ein bißchen umzusehen, um dessen Leben und Kultur näher kennenzulernen. Es wäre schön, wenn Sie von sich heraus Bekanntschaften zu Unternehmen in Osaka und den dort angestellten Arbeitern knüpfen würden. Ich hoffe von ganzem Herzen, daß Sie während Ihres Aufenthalts in Osaka neue Erfahrungen gewinnen werden und uns in guter Erinnerung behalten.

Zum Schluß meiner Rede möchte ich den Mitgliedern des Internationalen Komitees des Berufswettbewerbs, dem japanischen Organisationskomitee des IBW und allen anderen beteiligten Personen meinen Dank für ihre Bemühungen aussprechen.

Ich wünsche dem Wettbewerb gutes Gelingen und allen Teilnehmern guten Erfolg.

Cérémonie d'ouverture

〈Date〉

le 21 October 1985

〈Place〉

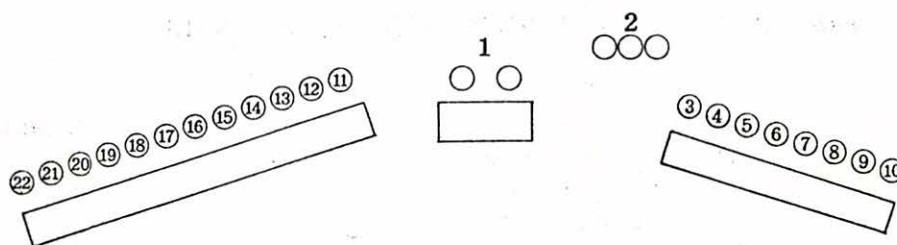
Palais des Expositions Internationales

CEREMONIE D'OUVERTURE

Maître de Cérémonie
Hiroyuki Kawakami

- | | | |
|--------|-------|---|
| N° 1. | 14.00 | Entrée des concurrents |
| N° 2. | 14.08 | Spectacle de bienvenue |
| N° 3. | 14.44 | Introduction des invités et officiels |
| N° 4. | 14.47 | Entrée de Leurs Altesses Impériales le Prince Héritier et la Princesse |
| N° 5. | 14.49 | Entrée des représentants des concurrents et du drapeau du Comité International de Formation Professionnelle |
| N° 6. | 15.04 | Hissage des drapeaux Japonais et du Comité International de Formation Professionnelle |
| N° 7. | 15.07 | Ouverture officielle de la cérémonie
Koji Ishii, Secrétaire général du Comité d'Organisation Japonais |
| N° 8. | 15.08 | Allocution de bienvenue
Shigeichi Koga, Président du Comité d'Organisation Japonais |
| N° 9. | 15.12 | Allocution de Francisco Albert Vidal, Président de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle |
| N° 10. | 15.16 | Serment des concurrents
Shoji Fujita, concurrent représentant le Japon pour le câblage domestique |
| N° 11. | 15.18 | Allocution de Son Altesse Impériale le Prince Héritier |
| N° 12. | 15.23 | Allocution de félicitations
Toshio Yamaguchi, Ministre du Travail
Sakae Kishi, Gouverneur d'Osaka |
| N° 13. | 15.33 | Présentation des timbres commémoratifs par Megumu Sato, Ministre des Postes et Télécommunications |
| N° 14. | 15.38 | Allocution de clôture
Koji Ishii, Secrétaire général du Comité d'Organisation Japonais |
| N° 15. | 15.40 | Départ de Leurs Altesses Impériales le Prince Héritier et la Princesse |
| N° 16. | 15.44 | Présentation d'un film touristique |
| N° 17. | 16.04 | Sortie des concurrents |

INVITES ET OFFICIELS



1. Leurs Altesses Impériales le Prince Héritier et la Princesse
2. Le personnel de la Cour Impériale
3. Toshio Yamaguchi, Ministre du Travail
4. Megumu Sato, Ministre des Postes et Télécommunications
5. Sakae Kishi, Gouverneur d'Osaka
6. Kazutaka Tsuboi, Président de l'Assemblée Préfectorale d'Osaka
7. Masayuki Nomiya, Directeur général de la Section de Développement des Ressources Humaines, Ministère du Travail
8. Yasushi Oshima, Maire d'Osaka
9. Kazuo Kitamaki, Maire d'Hirakata
10. Shinya Inoue, Maire de Settsu
11. Shigeichi Koga, Président du Comité d'Organisation Japonais
12. Francisco Albert Vidal, Président de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle
13. Sze-Chen Wang, Premier Vice-président de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle
14. René Gonthier, Second Vice-président de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle
15. Shigeru Eda, Troisième Vice-président de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle
16. Daniel Sommer, Secrétaire Général de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle
17. Ryozauro Kawahara, Vice-président du Comité d'Organisation Japonais
18. Yoshihiko Yamashita, Vice-président du Comité d'Organisation Japonais
19. Yoshisato Maeda, Vice-président du Comité d'Organisation Japonais
20. Hideo Abe, Vice-président du Comité d'Organisation Japonais
21. Hideo Seki, Vice-président du Comité d'Organisation Japonais
22. Koji Ishii, Secrétaire Général du Comité d'Organisation Japonais

ALLOCUTION DE BIENVENUE

SHIGEICHI KOGA

PRESIDENT DU COMITE D'ORGANISATION JAPONAIS

Je voudrais m'adresser brièvement à vous au nom du Comité d'Organisation Japonais à l'occasion de l'ouverture du 28ème Concours International de Formation Professionnelle.

Je voudrais adresser mes vœux de bienvenue les plus chaleureux au Président Albert et aux représentants du Comité International d'Organisation, aux concurrents et aux officiels qui représentent 19 pays ou régions du monde.

Nous sommes honorés aujourd'hui par la présence de Leurs Altesses Impériales le Prince et la Princesse, du Ministre du Travail ainsi que par celle de nombreux invités de marque. Nous sommes très heureux, en tant qu'organisateurs de ce concours, de pouvoir ouvrir cette splendide cérémonie.

Comme vous le savez, l'abondance et la prospérité du monde à notre époque sont maintenues grâce aux progrès techniques et au développement de la formation professionnelle. En conséquence, les importantes contributions apportées par la jeunesse formée professionnellement sont hautement appréciées.

Ce Concours de Formation Professionnelle a aidé internationalement la jeunesse à s'acquitter de son rôle et a permis à la société de reconnaître et d'apprécier ce rôle. Les prouesses remarquables obtenues lors de ces concours sont véritablement dignes d'admiration.

Le Comité d'Organisation Japonais, comprenant parfaitement les buts de cette manifestation, a donné le meilleur de lui-même afin que ce concours soit réussi. Nous avons collaboré avec les cercles industriels japonais, le Ministère du Travail, l'Association de Développement des Techniques Professionnelles, la Préfecture d'Osaka et de nombreuses autres personnes utiles concernées. Nous avons également reçu l'aide de l'Organisation Internationale pour le Concours International de Formation Professionnelle.

Tous les candidats sont d'excellents travailleurs dans leurs métiers respectifs et ils représentent de nombreux collègues. J'espère sincèrement qu'ils donneront le meilleur d'eux-mêmes et qu'ils pourront obtenir des résultats satisfaisants. Toutes les personnes présentes vont passer environ une semaine ensemble. Nous espérons qu'à cette occasion, vous pourrez approfondir une compréhension mutuelle et une amitié afin de contribuer à l'amitié internationale dans l'état d'esprit démontré ici.

Ce concours a lieu à Osaka, grande cité dotée d'industries actives, mais également proche des anciennes capitales que sont Kyoto et Nara, villes qui conservent l'histoire, les arts et la culture des temps anciens.

Nous espérons que vous mettrez à profit cette occasion pour porter votre attention non seulement sur les industries japonaises mais également sur les arts et la culture du Japon de façon à pouvoir comprendre notre pays d'une manière plus approfondie. Nous serons heureux de vous aider à pouvoir le faire.

Nous espérons que ce concours sera réussi et que les Concours Internationaux de Formation Professionnelle auront une audience de plus en plus large. Nous souhaitons également un séjour agréable et fructueux à tous nos invités de l'étranger.

ALLOCUTION

FRANCISCO ALBERT VIDAL

PRESIDENT DE L'ORGANISATION INTERNATIONALE CHARGÉE
DE PROMOUVOIR LA FORMATION PROFESSIONNELLE

Altesses Impériales, le Prince et la Princesse du Japon
Monsieur le Ministre de Travail
Ministre des Postes et Télécommunications
Monsieur le Gouverneur d'Osaka
Monsieur le Directeur de l'Association Japonaise pour le Développement de la
Formation Professionnelle
Messieurs les Membres de l'Assemblée et des Jurys de l'Organisation Internationale
Chers jeunes qui allez participer à ce Concours
Mesdames, Messieurs

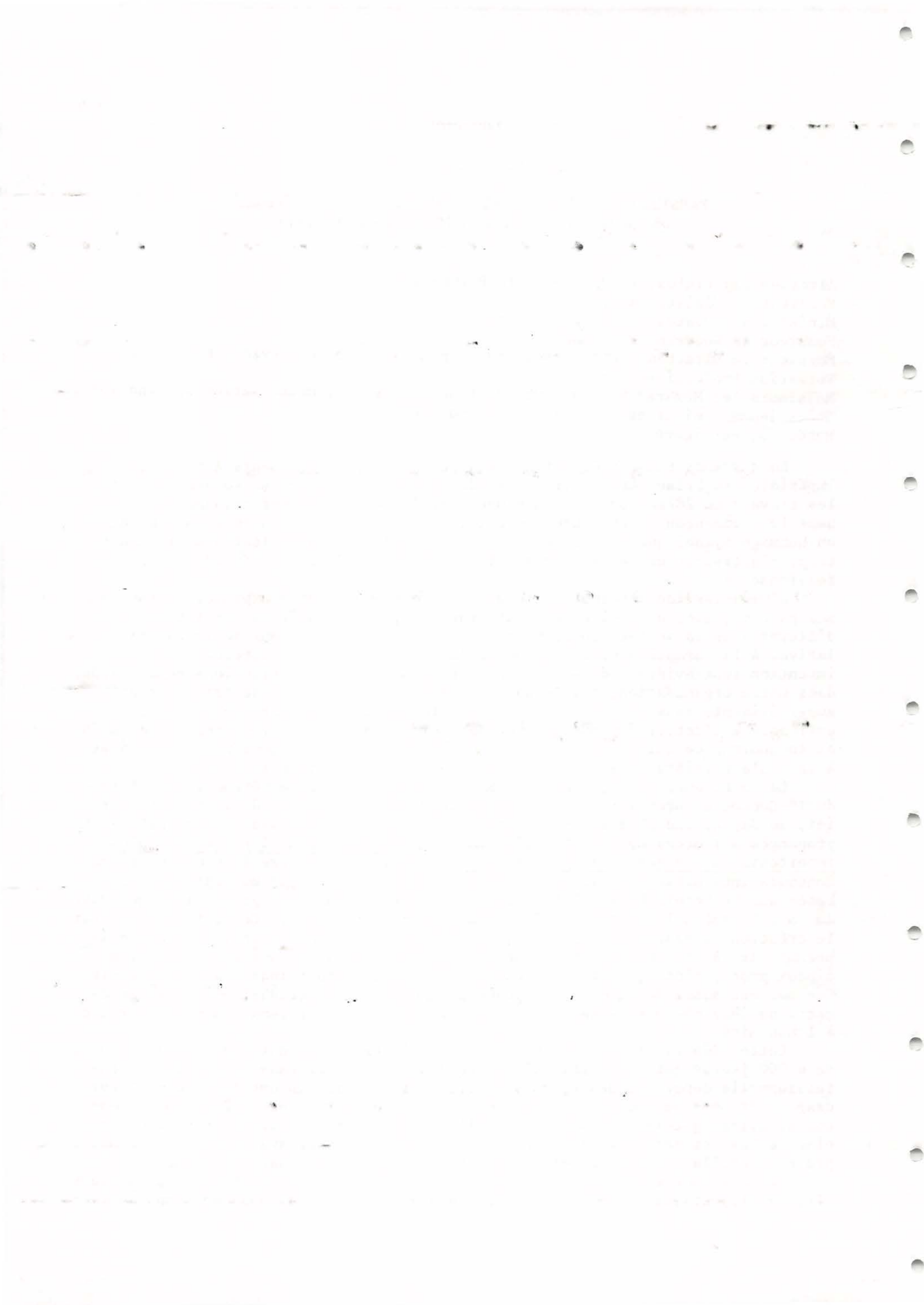
Nous sommes rassemblés ici honorés par la présence de Leurs Altesses Impériales le Prince et la Princesses du Japon, pour commencer solennellement les travaux du 28ème Concours International de Formation Professionnelle, et nous les commençons dans cette Année Internationale de la Jeunesse en rendant un hommage symbolique à tous les jeunes du monde qui travaillent dans l'industrie, l'artisanat et les services, et aux jeunes étudiants de Formation Professionnelle.

L'Organisation Internationale que je préside veut bien exprimer à travers mes paroles, avec une solennité toute spéciale, son intérêt et son intention d'élever dans la société le respect et la dignité accordés aux activités relatives à la formation professionnelle de la jeunesse. Cet intérêt et cette intention sont évidents dans tous les Organismes et les Institutions représentés dans notre Organisation, des 18 pays des 4 continents ici présents; ils sont aussi évidents dans leurs efforts pour cette jeunesse qui par son travail, collabore à l'activité productive et participe dans les développements économique et technologique qui doivent nous permettre d'accéder au bien-être pacifique et à la noble coexistence sociale dont le monde a besoin et qu'il mérite.

Le 23 novembre 1984, j'étais à Rio de Janeiro, pour la cérémonie de clôture du 1er Concours Interaméricain de Formation Professionnelle. Je veux rappeler ici, au Japon, une phrase que de Monsieur le Ministre du Travail du Brésil, a prononcée à l'occasion de cette cérémonie: "Les idées sont les dons les plus importants qu'une génération reçoit de la précédente". Notre idée de tenir ces Concours Internationaux date de l'année 1950 (il y a 35 ans) et cette idée est basée sur le besoin humain "d'exalter le travail" comme une "grande idée qui vient du coeur" (selon les mots du créateur des Jeux Olympiques). Cette idée basée sur la création de contacts entre vous, les jeunes travailleurs professionnels qui prenez part à ce Concours, pour que cette expérience dont vous serez les principaux protagonistes, soit pour vous un événement extraordinaire dans votre vie. Son but est aussi de stimuler la jeunesse à exécuter un travail bien fait et de cette manière obtenir la satisfaction spirituelle d'avoir rendu un noble service à l'humanité.

Cette idée est le cadeau que cette Organisation Internationale a fait à près de 6.000 jeunes qui ont participé aux Concours Internationaux de Formation Professionnelle depuis le début, nous espérons bien qu'ils en ont fait le meilleur usage. Et nous ne doutons pas que vous aussi, les participants à ce 28ème concours, allez également l'apprécier et l'accepter et qu'il sera pour vous un principe de base et continuerez, dans le futur, à donner au travail et "à la formation professionnelle le prestige et la dignité qu'ils méritent dans la société.

Je veux tout spécialement exprimer notre admiration et notre respect à Leurs Altesses Impériales le Prince et la Princesse du Japon, qui nous honorent de leurs



présences; Je veux faire part de notre reconnaissance au Gouvernement Japonais pour son aide à la jeunesse du monde du travail, de notre gratitude pour l'hospitalité cordiale des autorités d'Osaka ainsi que de notre appréciation des efforts réalisés par l'Association Japonaise pour le Développement de la Formation Professionnelle dans l'organisation de cet événement. Au nom de l'Assemblée des Membres de l'Organisation Internationale chargée de promouvoir la Formation Professionnelle et de tous ceux qui sont présents ici, j'exprime notre satisfaction et cordiale gratitude pour l'importance accordée à cette manifestation à Osaka.

Je voudrais vous dire le vif plaisir que j'ai de voir s'ouvrir, aujourd'hui, ici à Osaka, ce 28ème Concours International de Formation Professionnelle auquel participent de si nombreux concurrents venant de part le monde.

C'est dans la ville de Chiba, il y a 15 ans, que le Japon fut pour la première fois le siège de ce Concours. Depuis cette date, le nombre des pays participants ainsi que celui des épreuves inscrites se sont vus considérablement augmenter, démontrant par là l'importance toujours croissante de cette manifestation. Je tiens à exprimer mon respect le plus profond à l'égard de toutes les personnes qui ont contribué par leurs efforts inestimables à l'organisation du présent Concours.

Bien que dans le monde de l'industrie d'aujourd'hui, le mot d'ordre soit la mécanisation, l'importance de l'habileté et du savoir-faire humains qui constituent le fondement de toute activité, loin de diminuer, est chaque jour davantage reconnue. Je crois que vous tous, concurrents, qui incarnez ces deux valeurs avez été choisis pour vos qualités acquises à travers mille expériences. J'espère que ce Concours sera pour chacun d'entre vous un événement particulièrement positif et profitable et qu'il vous permettra d'élargir le cercle de l'amitié internationale.

Souhaitons pour finir que le Concours International de Formation Professionnelle soit pour longtemps encore le phare qui guide la jeunesse dépositaire de l'habileté et du savoir-faire humains.

ALLOCUTION DE FELICITATION

TOSHIO YAMAGUCHI

MINISTRE DU TRAVAIL

Aujourd'hui, en la présence de Leurs Majestés le Prince Akihito et la Princesse Michiko et avec l'assistance d'un grand nombre de concurrents et de personnes concernées aussi bien dans leur pays qu'à l'étranger, la cérémonie d'ouverture du Concours International de Formation Professionnelle se déroule avec succès. Laissez-moi vous offrir toutes mes félicitations.

Je voudrais tout d'abord, au nom du Gouvernement japonais, présenter mes vœux de bienvenue les plus chaleureux au Président Albert ainsi qu'aux vice-présidents de la Commission Internationale pour le Concours International de Formation Professionnelle, M. Won et M. Gonthier, aux officiels et aux concurrents qui sont venus ici participer à cette manifestation.

Comme vous le savez probablement, le nombre des pays et des concurrents participant à ce concours de Formation Professionnelle a été en augmentant depuis le premier concours international qui s'est déroulé en Espagne en 1950. Ce concours peut être apprécié aujourd'hui comme un véritable festival international des jeunes travailleurs spécialisés et il a grandement contribué à l'amélioration des techniques de travail dans le monde ainsi qu'à celle de l'amitié internationale. Permettez-moi de rendre hommage aux nombreuses personnes qui ont aidé à promouvoir cette manifestation.

Ce concours a lieu pour la seconde fois au Japon, après le 19ème concours qui eut lieu en 1970 et il peut être considéré comme le plus important parmi ceux organisés tant par le nombre des concurrents que par celui des métiers concernés. Il est très opportun qu'un tel concours, sous la forme d'un festival des jeunes travailleurs, responsables de l'avenir du monde, ait lieu cette année qui a été déclarée "Année Internationale de la Jeunesse" par les Nations Unies. Je voudrais présenter mes félicitations les plus sincères pour cette manifestation.

Je voudrais également faire remarquer que la salle dans laquelle se déroule aujourd'hui cette cérémonie d'ouverture est située dans le Parc des Expositions où l'Exposition Mondiale - festival de la science et de la technologie - s'est tenue en 1970.

La technologie de pointe que nous avons observée pour la première fois à ce moment-là, a été mise en pratique dans les usines et les bureaux de chaque région, promue par les rénovations technologiques telle que l'introduction de la micro-électronique.

En outre, différents cercles industriels ont porté plus particulièrement leurs efforts vers les services et les programmes, et de ce fait, les caractéristiques de travail et les systèmes de l'emploi se sont largement modifiés. Pour pouvoir s'adapter à ces changements, les travailleurs doivent à présent posséder les capacités professionnelles appropriées, c'est-à-dire une formation avancée soutenue par des connaissances étendues.

Dans ces circonstances, les concurrents participent à ce concours en tant que représentants des jeunes travailleurs spécialisés de leur pays et il est très significatif que les participants concourent en mettant pleinement en oeuvre l'excellence de leur qualification. J'espère également que ce concours offrira aux personnes qui y ont participé l'opportunité d'une plus profonde compréhension et amitié par le biais des techniques professionnelles et qu'il contribuera à la prospérité et à la paix dans le monde, ceci étant le vœu le plus cher du Japon en tant que pays-hôte de cette manifestation. Je suis persuadé que ce concours sera couronné de succès et que tous les objectifs seront atteints.

Pour terminer mon allocution, je voudrais remercier les membres du Secrétariat Général de la Commission Internationale de Formation Professionnelle qui

a mis en oeuvre tous ses efforts pour assurer le succès de ce 28ème Concours, les participants de chaque pays, le Comité d'Organisation Japonais pour le Concours International de Formation Professionnelle qui a exécuté les travaux de préparation et mis en place les structures administratives de cette manifestation au Japon ainsi que la Préfecture d'Osaka et les autres organisations et entreprises japonaises qui ont prêté avec empressement leur concours.

ALLOCUTION DE FELICITATION

SAKAE KISHI

GOUVERNEUR D'OSAKA

Je suis très heureux de votre venue à Osaka et je voudrais vous souhaiter la bienvenue au nom des 8,7 millions d'habitants de cette ville.

Nous sommes très honorés d'accueillir le Concours International de Formation Professionnelle, festival des jeunes travailleurs spécialisés, spécialement en cette année qui a été déclarée "Année Internationale de la Jeunesse". C'est pour moi un grand privilège et un véritable plaisir que de prendre part à cette cérémonie d'ouverture en tant que Gouverneur d'Osaka en la présence de Leurs Altesses Impériales le Prince et la Princesse ainsi que de celle de nombreux concurrents et de toutes les personnes concernées par ce concours de par le monde.

De nouveaux développements technologiques tels que l'automation des usines ont fait de remarquables progrès récemment au Japon, alors que le rôle de la technique fondamentale a eu tendance à être négligé. Cependant, afin d'obtenir une efficacité réelle de ces systèmes avancés, la technique de travail des travailleurs spécialisés est absolument indispensable et l'on peut avancer sans le moindre doute que le rôle des travailleurs spécialisés va augmenter, bien qu'il changera en essence.

C'est dans ce contexte historique que se tient ce concours auquel vont participer de jeunes travailleurs pourvus de dons professionnels et de nombreuses personnes en relation avec le système de formation professionnelle et il contribuera grandement à promouvoir parmi les jeunes japonais qui portent l'avenir du Japon sur leurs épaules, la volonté d'obtenir des qualifications encore meilleures. Nous pensons que cette formation professionnelle permettra à notre société d'accorder une vraie valeur aux techniques irremplaçables de travail.

L'histoire de la ville d'Osaka est plus ancienne que celle des villes de Kyoto et de Nara et cette ville est également une cité progressiste et créative par nature, qui essaie toujours d'absorber de nouvelles cultures.

Osaka, à l'approche du 21^{ème} siècle, veut être une ville internationale ouverte au monde et nous produisons tous nos efforts pour construire l'Aéroport International du Kansai qui sera le premier aéroport du Japon à être en service 24 heures sur 24. Nous nous efforçons également de promouvoir l'amitié internationale par la participation active de la ville d'Osaka en accueillant de nombreuses manifestations internationales à l'exemple de ce concours.

Je voudrais présenter mes respects aux concurrents et leur demander de mettre pleinement en oeuvre leurs techniques professionnelles lors de ce concours qui s'ouvrira demain et d'approfondir par ce concours leurs amitiés avec les candidats des autres pays participants.

Mon voeu le plus cher est que, en plein accord avec la devise "Participation, Développement et Paix" qui est le thème de cette Année Internationale de la Jeunesse, les concurrents sachent pleinement profiter des leçons du concours et utiliser ce qu'ils auront appris pour participer au développement du monde lorsqu'ils seront de retour chez eux.

Je vous recommande avec insistance de saisir l'opportunité qui vous est offerte pour prendre contact avec des entreprises et des employés d'Osaka et expérimenter la vie et la culture de cette ville. J'espère très sincèrement que vous tiriez avantage de votre séjour dans notre ville.

Pour conclure, je voudrais rendre hommage aux efforts des membres du Comité International pour le Concours International de Formation Professionnelle, du Comité d'Organisation Japonais pour ce concours et des autres personnes concernées, en espérant que cette manifestation se déroulera avec succès et que les candidats donneront le meilleur d'eux-mêmes.

Ceremonia de apertura

〈Fecha〉

October 21 de 1985

〈Lugar〉

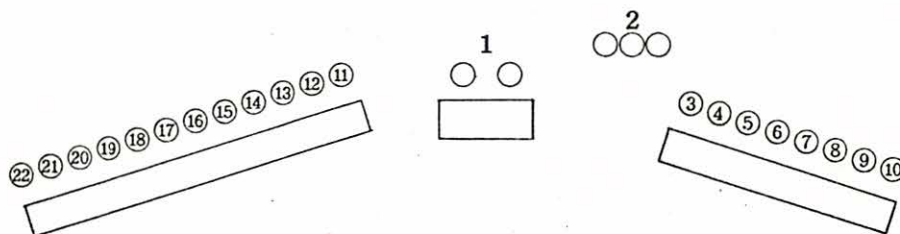
International Exhibition Memorial Hall

CEREMONIA DE APERTURA

Maestro de Ceremonias
Hiroyuki Kawakami

- | | | |
|--------|-------|---|
| No. 1 | 14:00 | Ingreso de los competidores al salón |
| No. 2 | 14:08 | Espectáculo de bienvenida |
| No. 3 | 14:44 | Presentación de los huéspedes y de los miembros de la mesa directiva |
| No. 4 | 14:47 | Honorable Ingreso de Sus Altezas Imperiales el Príncipe Héredero y la Princesa |
| No. 5 | 14:49 | Ingreso de la bandera del IVTC y de los representantes de los competidores |
| No. 6 | 15:04 | Se izan las banderas del Japón y del IVTC |
| No. 7 | 15:07 | Palabras de apertura
Koji Ishii, Secretario Gegeral del Comité Organizador Japonés |
| No. 8 | 15:08 | Discurso de bienvenida
Shigeichi Koga, Presidente del Comité Organizador Japonés |
| No. 9 | 15:12 | Discurso
Francisco Albert Vidal, Presidente de la Organización Internacional para la Promoción del Adiestramiento Ocupacional |
| No. 10 | 15:16 | Prestación de Juramento, de los competidores y representados
Shoji Fujita, competidor Japonés como técnico en el alambrado eléctrico |
| No. 11 | 15:18 | Honorables Palabras de Su Alteza Imperial el Príncipe heredero del Japón |
| No. 12 | 15:23 | Discursos de felicitación
Toshio Yamaguchi, Ministro de Trabajo
Sakae Kishi, Gobernador de Osaka |
| No. 12 | 15:33 | Obsequio de Estampillas Conmemorativas
Megumu Sato, Ministro de Correos y Telecomunicaciones |
| No. 14 | 15:38 | Palabras de clausura
Koji Ishii, Secretario General del Comité Organizador Japonés |
| No. 15 | 15:40 | Honorable Salida de Sus Altezas Imperiales el Príncipe heredero y la Princesa |
| No. 16 | 15:44 | Proyección de una Película cinematográfica sobre puntos de interés turístico |
| No. 17 | 16:04 | Salida de los competidores |

ILUSTRES HUESPEDES Y MIEMBROS DE LA MESA DIRECTIVA



1. Sus altezas Imperiales el Príncipe heredero y la Princesa
2. Comitiva de la Agencia encargada de Asuntos de la Corte Imperial
3. Toshio Yamaguchi, Ministro de Trabajo
4. Megumu Sato, Ministro de Correos y Telecomunicaciones
5. Sakae Kishi, Gobernador de la Prefectura de Osaka
6. Kazutaka Tsuboi, Presidente del congreso Prefectural de Osaka
7. Masayuki Nomiya, Director de la Oficina de Desarrollo de Recursos Humanos, del Ministerio de Trabajo
8. Yasushi Oshima, Alcalde de Osaka
9. Kazuo Kitamaki, Alcalde de Hirakata
10. Shinya Inoue, Alcalde de Settsu
11. Shigeichi Koga, Presidente del Comité Organizador Japonés
12. Francisco Albert Vidal, Presidente de la Organización Internacional para la Promoción del Adiestramiento Ocupacional
13. Sze-chen Wong, Primer Vicepresidente de la Organización Internacional para la Promoción del Adiestramiento Ocupacional
14. René Gonthier, Segundo Vicepresidente de la Organización Internacional para la Promoción del Adiestramiento Ocupacional
15. Shigeru Eda, Tercer Vicepresidente de la Organización Internacional para la Promoción del Adiestramiento Ocupacional
16. Daniel Sommer, Secretario General de la Organización Internacional para la Promoción del Adiestramiento Ocupacional
17. Ryoaburo Kawahara, Vicepresidente del Comité Organizador Japonés
18. Toshihiko Yamashita, Vicepresidente del Comité Organizador Japonés
19. Yoshisato Maeda, Vicepresidente del Comité Organizador Japonés
20. Hideo Abe, Vicepresidente del Comité Organizador Japonés
21. Hideo Saki, Vicepresidente del Comité Organizador Japonés
22. Koji Ishii, Secretario General del Comité Organizador Japonés

DISCURSO DE BIENVENIDA

SHIGEICHI KOGA

PRESIDENTE DEL COMITE ORGANIZADOR JAPONES

Con ocasion de la apertura de este XXVIII Concurso Olímpico Internacional de Formación Profesional, quisiera hablarles a nombre del Comité Organizador Japonés

Quisiera expresar mi más cordial bienvenida al Sr. Francisco Albert, Presidente del comité Organizador Internacional, así como a la junta directiva de dicho comité, a los concursantes y oficiales, y a las innumerables personas que han venido tanto de fuera como de dentro del país, para participar en este concurso.

Es un gran placer, para todos quienes hemos organizado este concurso, el vernos honrados con la presencia de Sus Altezas Imperiales los Príncipes heredero y la Princesa, así como el Señor Ministro de Trabajo e innumerables visitantes que hoy asisten a esta ceremonia de apertura. Quienes hemos organizado este concurso, estamos muy complacidos con la solemnidad de esta ceremonia.

Como todos ustedes reconocen, es muy apreciada la contribucion que la juventud puede hacer por medio de su entrenamiento profesional, ya que el mantenimiento de la abundancia y prosperidad del mundo dependen del progreso técnico y de la habilidad profesional. Estos Juegos Olímpicos de Trabajo promueven el desarrollo de la habilidad técnica y la competencia profesional entre los jóvenes, y constituyen un esfuerzo internacional por dar el reconocimiento social merecido al papel que juega la juventud en el mejoramiento técnico y en la formación vocacional.

Teniendo en consideracion los objetivos de este concurso, y para hacer de él un éxito, el Comité Organizador Japonés unió sus fuerzas con los círculos industriales japoneses, el Ministerio de Trabajo, la Asociación Japonesa para la Promoción de la Formación Profesional, las autoridades de la Prefectura de Osaka, y otras personas interesadas, bajo la dirección del Comité Organizador Internacional, en un esfuerzo cooperativo perfecto.

Todos los concursantes son excelentes trabajadores en sus respectivas profesiones, y han sido elegidos de entre un gran número de colegas. Espero que todos demuestren ampliamente su gran habilidad profesional, y que pueden así obtener buenos resultados. Vivireis juntos durante más de una semana. Creo que durante este tiempo podreis estrechar los lazos de amistad y comprensión mutuas e impulsar de este modo la amistad y la buena voluntad internacionales.

Este concurso se celebra en Osaka, ciudad plena de vigor y un gran cenro industrial. Sin embargo, Osaka es también una muy antigua metropolis japonesa, y preserva invauables tesoros de arte, cultura e historia.

Me permito sugeriros que aprovechéis esta valiosa oportunidad, no solamente para familiarizaros con la industria japonesa, sino también para echar una buena mirada al arte y la cultura de nuestro país, para que de esta forma podáis adquirir una visión más profunda sobre el Japón. Contad para ello con nuestra más sincera colaboración.

Ruego a Dios que este concurso sea un éxito, y que estas olimpidas del trabajo continúen progresando en el futuro. Esperamos sinceramente que todos los visitantes extranjeros tengan una estadía placentera y provechosa en Japón.

DISCURSO

FRANCISCO ALBERT VIDAL

ORGANIZACION INTERNACIONAL PARA LA PROMOCION
DEL ADIESTRAMIENTO OCUPACIONAL

Altezas Imperiales el Príncipe heredero y la Princesa de Japón
 Excelentísimo Ministro de Trabajo
 Excelentísimo Ministro de Correos y Telecomunicaciones
 Excelentísimo Gobernador de Osaka
 Ilustrísimo Director de la Asociación Japonesa para el Desarrollo de la Formación Profesional
 Señores Componentes de la Asamblea de Miembros y de los Jurados de la Organización Internacional
 Distinguidos Jóvenes que vais a participar en este Concurso
 Señoras y Señores

Nos hemos reunido en este acto, honrados con la presencia de Sus Altezas Imperiales los Príncipes de Japón, para con toda solemnidad, iniciar las tareas del XXVIII Concurso Internacional de Formación Profesional; y las iniciamos rindiendo simbólicamente un homenaje y un recuerdo especial, en la conmemoración del Año Internacional de la Juventud, a los jóvenes de todo el Mundo, trabajadores de la Industria, de la Artesanía y de los Servicios, y a los jóvenes estudiantes de Formación Profesional.

En las actuales y muy excepcionales circunstancias que nos depara la Sociedad en este momento histórico, la Organización Internacional que presido, desea proclamar y patentizar con mis palabras, y también con excepcional solemnidad, sus inquietudes y propósitos de elevar el rango y prestigio que, socialmente merecen las actividades y la dedicación, orientadas a la formación profesional de la juventud. Inquietudes y propósitos bien evidentes, de todos los Organismos e Instituciones, en dicha Organización representados, de los 18 Países, de 4 Continentes aquí presentes en este acto, así como las tareas que se vienen realizando por esa Juventud que, con su trabajo, coopera en la actividad productiva, participando en el desarrollo económico y tecnológico, con el que lograr el bienestar pacífico y la noble convivencia social que el Mundo precisa y que al Mundo le corresponde.

El día 23 de noviembre de 1.984, asistí en Rio de Janeiro, al acto de clausura del I Concurso Interamericano de Formación Profesional. Quiero recordar, aquí en Japón, una frase del Sr. Ministro de Trabajo de Brasil, que intervino en dicho acto. "Las ideas son las más importantes dádivas que una generación recibe de la anterior". Nuestra idea de celebrar estos Concursos Internacionales de Formación Profesional, data del año 1.950 (han pasado 35 años), y esta idea tiene su fundamento en la necesidad humana de "exaltar el trabajo", como una "gran idea que proviene del corazón" (como dijera el creador de los Juegos Olímpicos); tiene su fundamento esta idea en el establecimiento de contactos, entre vosotros jóvenes trabajadores que participáis en este Concurso, para que esta experiencia que vais a protagonizar, constituya un trascendente acontecimiento en vuestra vida; y también tiene su fundamento esta idea, en crear ilusiones y estímulos en la Juventud que realiza el "trabajo bien hecho", que os proporcionará la satisfacción espiritual de haber prestado un noble servicio a la Sociedad.

Esta idea es la dádiva que esta Organización Internacional ha entregado a los cerca de 6.000 jóvenes que participaron en los Concursos Internacionales de Formación Profesional, y que esperamos hayan recogido; y no dudamos que vosotros participantes en este XXVIII Concurso recojais, para que sea adoptada como principio básico y como alegre ilusión, para proseguir en el futuro, concediendo al trabajo y a la formación profesional, el prestigio y la dignidad que socialmente merecen.

Con nuestra admiración y respeto a Sus Altezas Imperiales los Príncipes de Japón, al encontrarse entre nosotros ensalzando este acto; con nuestro reconocimiento al Gobierno Japonés, por sus muchas aportaciones a la Juventud del mundo del trabajo; con nuestra complacencia por la hospitalidad cordial de todas las Autoridades de Osaka; y con nuestra consideración y justa ponderación de los esfuerzos que ha realizado la Asociación Japonesa para el Desarrollo de la Formación Profesional para organizar este acontecimiento, en nombre de la Asamblea de Miembros de la Organización Internacional para la Promoción de la Formación Profesional y en el de todos los aquí presentes, expreso nuestra satisfacción y cordial gratitud por la trascendencia de estas actividades que vamos a desarrollar en Osaka.

HEREDERO DEL JAPÓN

Es muy complaciente para mí al ver que el Vigésimo-Octavo Concurso Internacional de Habilidades Técnicas Ocupacionales se inicia hoy aquí en Osaka, contando con numerosos participantes desde el exterior.

Fué en la Prefectura de Chiba, ya hace quince (15) años, cuando se organizara anteriormente el Concurso en el Japón, y al comparar con aquel entonces, veo que se han incrementado tanto el número de países participantes como el ítem de competencias, todo ésto dejándonos entrever las huellas de la constante prosperidad de este Evento Internacional. Es por ello quisiera expresar mi sentimiento de respeto hacia todos quienes relacionados con el Concurso por sus esfuerzos realizados.

En el mundo industrial de hoy en día, se encuentra en pleno desarrollo la automatización. No obstante, la importancia de la habilidad técnica en el ser humano, que constituye la base misma de la industria, está en pos de aumento constante, muy al contrario de ir disminuyendo. Pienso que como personas que saben hacer valer de la habilidad técnica, Uds. se convirtieron en competidores del presente Concurso después de haber refinado su habilidad técnica y de haber adquirido años de experiencia.

Me sentiré muy complacido si el presente Concurso resulte algo muy significativo para cada uno de Uds., asimismo, si el eslabón de amistad vaya ensanchando entre Uds. siendo debidamente forjado en virtud del presente Concurso.

Espero sinceramente que el Concurso Internacional de Habilidades Técnicas Ocupacionales siga sirviendo de luminaria, también para el porvenir, para la juventud trabajadora que sabe hacer valer de su habilidad técnica.

DISCURSO DE FELICITACION

TOSHIO YAMAGUCHI

MINISTRO DE TRABAJO

Me es muy grato expresar de todo corazón mi más sincera felicitación por haberse llevado a cabo tan grandiosamente la Ceremonia de Apertura del Vigésimo-Octavo Concurso Internacional de Habilidades Técnicas Ocupacionales precisamente en el día de hoy, siendo glorificado con la honorable presencia de Sus Altezas Imperiales el Príncipe Heredero y la Princesa, asimismo, contando con la concurrencia de numerosas personas relacionadas tanto nacionales como del exterior.

En primer lugar, quisiera hacer presente mi más cordial bienvenida, a nombre del Gobierno del Japón, al Presidente, Sr. Albert, a los Vicepresidentes, Sr. Won y Sr. Gonthier, del Comité Organizador Internacional, y a todos los miembros de la Mesa Directiva y también competidores quienes, pese a la distancia que nos separa, desde distintos países de ultramar han tenido a bien participar en el presente Concurso Internacional.

Como es de conocimiento de todos Uds., este Concurso Internacional, desde que fuera organizado por primera vez en España allá en 1950, ha venido creciendo tanto en número de países participantes como en número de competidores participantes hasta digno de llamarse como Festival Internacional de la Juventud trabajadora calificada. Realmente es muy grande el grado de contribución con que vienen aportando los Concursos hasta ahora organizados para el mejoramiento del nivel de habilidades técnicas y también para el fortalecimiento de la buena amistad internacional, es por eso aprovecho la oportunidad para expresar mi profundo respeto hacia todas aquellas personas que tuvieron a bien contribuir al desarrollo del presente Concurso Internacional.

Es esta la segunda vez que se ha concedido al Japón el honor de servir como anfitrión de este concurso, renovando así su patrocinio del XIX Concurso en 1970. En cuanto al número de concursantes y profesiones representados, este XXVII Concurso será el más grande jamás celebrado.

También es motivo de felicitación el hecho de que la organización de este festival de la juventud trabajadora, que representa a la población vital para el futuro del mundo, coincida con la celebración del "Año Internacional de la Juventud", declarado por la Organización de las Naciones Unidas. Quiero aquí brindar a todos ustedes mis más cordiales felicitaciones.

Deseo aprovechar esta ocasión para hacer un poco de historia. Esta sala donde hoy celebramos la ceremonia de apertura, está situada en el Parque Conmemorativo de la "Exposición Internacional de Ciencia y Tecnología" celebrada en 1970. La tecnología más avanzada que pudimos observar en aquella ocasión ha sido ya introducida en la mayoría de las fábricas y oficinas de nuestro país, destacándose en este impulso de renovación tecnológica el sector de microelectrónica. Esta infusión de nuevas tecnologías, juntamente con el énfasis que diversos sectores industriales han puesto en la calidad de los servicios y de la planificación, ha resultado en una modificación radical de los sistemas y requisitos de empleo. Es pues indispensable en nuestro tiempo que los trabajadores tengan la preparación teórica y técnica necesaria para convertirse en profesionales capaces de asumir el reto que el estado actual del mundo industrial les impone. Es pues en estas circunstancias que los concursantes, representando a la juventud trabajadora de sus respectivos países, se han reunido aquí para participar en el presente concurso.

Si bien es cierto que en este concurso vamos a presenciar la competición entre excelentes profesionales, es también cierto que nuestro principal deseo es que este campeonato sirva de base para la creación de lazos de amistad y de mejor comprensión entre los participantes, porque creemos que es esta una de las mejores formas de contribuir a la prosperidad y la paz del mundo, las cuales constituyen el más alto objetivo que se ha propuesto el Japón, como país anfitrión.

Confío en que este concurso discurra con normalidad y en que logremos plenamente los objetivos propuestos.

Para concluir mis palabras, agradezco de todo corazón a los miembros de la Secretaría General del Concurso Internacional de Adiestramiento ocupacional, quienes han puesto de su parte todo lo posible para que se celebrara este XXVIII Concurso, a los participantes de todos los países, a los miembros del Comité Organizador Japonés, que han sido excargados de los preparativos y de la administración en Japón de todas las actividades relacionadas con el concurso, juntamente con la prefectura de Osaka y demás relacionadas con el concurso, juntamente con la prefectura de Osaka y demás organizaciones y entidades nacionales relacionadas.

DISCURSOS DE FELICITACION

SAKAE KISHI

GOBERNADOR DE OSAKA

Me es muy grato tenerlos a Uds. entre nosotros aquí en Osaka, pese a la distancia que nos separa, han tenido a bien honrarnos con su amable asistencia al presente Concurso Internacional. En nombre de los 8,7 millones de habitantes de la Prefectura de Osaka, les presento de todo corazón una calurosa Bienvenida.

Como Gobernador de la Sede, es un gran honor, a la vez, una gran alegría para todos nosotros de la Prefectura de Osaka el hecho de haber celebrado tan grandiosamente la ceremonia de apertura, habiendo sido designada esta Osaka nuestra como sede central para el Concurso Internacional de Habilidades Técnicas Ocupacionales que constituye prácticamente el festival internacional para la Juventud Trabajadora Calificada, justamente en el año que corresponde al Año Internacional de la Juventud, además, siendo glorificados con la honorable asistencia de Sus Altezas Imperiales el Príncipe Heredero y la Princesa y contando con la amable concurrencia de numerosos competidores y personas relacionadas con el evento, provenientes de distintos lugares del mundo.

Si bien es cierto que en los últimos años en el Japón la "Automatización de Oficinas y de Fábricas" ha cobrado una extraordinaria importancia, no es menos cierto que ha surgido una tendencia a considerar como en un segundo plano a la preparación básica ocupacional de la clase trabajadora. No obstante, para hacer funcionar con más eficiencia a tal sistema de alta tecnología, se reconoce la absoluta necesidad de una habilidad técnica debidamente calificada, lo que habrá de aumentar contrariamente el papel que desempeñe el trabajador calificado en forma algo distinta que hasta ahora se le exigía.

Justamente en circunstancias como éstas, se organizó en esta Osaka nuestra el presente Concurso Internacional con la participación de los Jóvenes Trabajadores Calificados y personas relacionadas con el adiestramiento ocupacional, hecho que sin lugar a dudas contribuirá grandemente a la promoción del adiestramiento ocupacional y a la apreciación de la habilidad técnica en la sociedad, además de servir de acicate para incentivar el ánimo e interés por aprender las habilidades técnicas entre los jóvenes, quienes se harán cargo de la próxima generación de nuestro país.

Esta Osaka nuestra, que cuenta con una historia más antigua que la de las ciudades de Kioto y Nara, constituye la región donde es constante el reto que se hace a cualquier cultura nueva, en virtud de su espíritu emprendedor, a la vez, creador.

En la actualidad, esta Osaka nuestra está promoviendo la construcción de un nuevo aeropuerto, llamado el aeropuerto internacional de Kansai, que posibilita por primera vez en nuestro país la operación consecutiva durante las 24 horas del día, objetivizando la construcción de una ciudad internacional abierta hacia todo el mundo, además de estar organizando continuamente una diversidad de eventos internacionales como el presente Concurso Internacional, en procura de la promoción del intercambio internacional y de la revitalización de la ciudad.

Quisiera ahora dirigir unas palabras a los concursantes. Mi deseo es que todos ellos realicen lo mejor posible los ejercicios que empezarán a partir de mañana, y que por medio del concurso puedan establecerse profundos lazos de amistad entre los participantes. Es mi esperanza que todos los concursantes, uan vez de regreso a sus hogares contribuyan al desarrollo económico de sus respectivos países de acuerdo con el lema de "Participación, Desarrollo y Paz" de este Año Internacional de la Juventud. Es mi ferviente recomendación que aprovechéis esta oportunidad para establecer contactos con la firmas de Osaka y con sus empleados intercambiando sus puntos de vista con ellos, y que visitéis nuestra ciudad para conocer la riqueza de su vida cultural. Espero que todo ello os sea sumamente provechoso.

Por último, quisiera agradecer profundamente a los miembros de la Organización Internacional del Concurso Internacional, al Comité Organizador Japonés y a todas las personas que han colaborado, expresando una vez más mi deseo de que este concurso se convierta en todo un éxito y que todos los concursantes se desempeñen a satisfacción.